

市議団ニュース

木村奉憲・22-8567、杉野 修・58-9010

石田利春・52-7260、渡辺昌代・21-9058

予算議会報告第2弾

(特別会計予算について)

高い公共料金は引き下げを！

後期高齢者医療

- ◆新市では滞納者数も 357 人に達しています。このままでは保険証が取り上げられ資格証明書の発行になります。
- ◆この医療制度ができる前は国保制度の中で
 - ①人間ドック費用の助成
 - ②保養施設利用の助成
 がありましたが、今、75 歳以上の方は対象からはずされています。

議員団は、初めから問題の多いこの制度の廃止と保険料の引き下げを強く求めました。

介護保険

- ◆合併時に介護保険料は一本化・統一となりましたが、その際、旧菖蒲町が多くの「段階」で値上げになりました。
 - ◆また、特別養護老人ホームの待機者は新市全体で 570 人（複数の施設待機を含む）です。
 - ◆「介護サービスの利用率」は全体でわずか 47、7%にとどまっています。
- 議員団は、国と市による財政措置をしっかり行い、施設の整備や、介護・福祉施設職員の処遇改善を早急に行うよう指摘、提案しました。

◆前号では新年度の予算のうち「一般会計」と「国民健康保険会計」についてお知らせいたしました。今回はそのほかの特別会計についてその特徴や議員団の評価などをお知らせ致します。ご意見をお寄せください。

土地区画整理事業特別会計

- ◆この会計は、旧栗橋町が大利根町と共同して行ってきた「駅西区画整理」の事業を扱うものです。
- ◆しかし、審議の中では、これまでに 103 億 7300 万円を投入してきたこと、また、今後 37 億 2200 万円かかること、が明らかになりました。
- ◆議員団は、討論の中で、「行政が開発優先策を進めるあまり、過剰な投資が行われ、保留地がすべて販売されたとしても大きな赤字を抱えることになる。赤字対策に終始させず今後に生かすためにも行政の責任も明確にする必要があること。地元地権者の合意をだいにすること。」などを指摘しまし

下水道特別会計

- ◆審議の中では、市が市内事業所での地下水使用状況を把握していないことが判明しました。問題です。（地下水を使用している場合は、汚水処理費を企業に請求しなければなりません。）
- ◆旧 4 市町の下水道料金は、全県で久喜市が 45 位、菖蒲町が 33 位、鷺宮町が 15 位、栗橋町が 13 位です。今後 3 年以内に統一されますが、「高い水道料金」と合わせ、住民生活を圧迫しています。
- ◆議員団は、料金の統一は引き下げを図ること。地下水の使用実態をつかみ、「請求漏れ」がないよう求めました。

水道事業会計

- ◆この事業では県下でも非常に高い料金を早期に引き下げることが課題です。（旧久喜市地域 17 位、菖蒲地域 14 位、鷺宮地域 6 位、栗橋地域が 2 位）
- ◆また、それは水道水のうち高い県水が 78% 占めていることも「高料金」の原因になっています。
- ◆議員団は、
 - ① 4 市町の水道会計からの「補てん財源」の合計が 22 億 4500 万円あるのでそれを計画的に活用すること。
 - ② 県水の契約量を見直すこと。などを精査して「早期に水道料金を引き下げるよう」強く求めました。また、リストラ解雇等の場合には、料金を減免するよう求めました。

6月議会での一般質問 (つづき)



総務財政市民
常任委員

石田利春議員

久喜市内を走っている循環バスを菖蒲、鷺宮、栗橋地域にも拡げてほしいという市民の願いは切実なものがある。市役所へ行く場合、栗橋駅から東武動物公園駅に出て久喜駅へ向かい、往復800円かかる。菖蒲地域からではバスを乗り継ぎ往復1180円。2時間かかる。デマンド方式(個別呼び出し方式)なども取り入れ、検討すべきだ。一体感のある街になる意味も大きい。費用対効果を考え、廃止を含め一年以内に検討というが、廃止すべきではないと主張。地域の声をどう受けとめ、反映していくのか。との問いに、市は、アンケートなどもとり、公共交通検討委員会で、検討をすすめるとの答弁でした。



福祉健康
常任委員

渡辺昌代議員

問：高すぎる国保税の引き下げは、多くの方が望んでいます。資格証明書、短期証の発行や、滞納世帯への改善もない中、健康と命にかかわる国保税の引き下げは早急に行うべきです。

答：国保制度は相互扶助であり、皆保険制度を維持しなければならない。高齢者、低所得者の割合や医療費の増加により厳しいことから引き下げはむずかしい。
この答弁に対し、「国保は「相互扶助」ではありません。憲法にもとづいて国民の権利として医療を国が保証するのは当たり前ではないですか。」と主張しました。



環境建設水道
常任委員

杉野 修議員

1、大雨・水害対策の具体化を

問：合併後の新市全体では大雨被害の特にひどい個所の改善対策をどうするのか。早急に事業を具体化すべきではないか。

答：旧鷺宮の地域が多い。

- ① 中央1丁目は・雨水の排水方法を設計する
- ② わしみや団地は・川幅を広げて調整池を造り、大雨の受け入れ容量を増やします。
- ③ JR線西側は・鉄道下の水路をしゅんせつして排水量を増やし、冠水を防ぎます。

そのほか、◆東鷺宮駅の橋上化は1000万円で調査・設計を行うと答弁。予算化しました。

◆3つの総合支所の空き部屋(2000㎡)パソコン(237台)は有効活用を検討すると答弁。



文教常任委員

木村奉憲議員

久喜総合病院の体制と地域医療連携について

問：久喜総合病院の来年春の開院が真近かだが、医師や看護師などスタッフの確保と地域医療連携はどのようにすすめられるのか。

答：現在の建設進捗率は71%、年内の11月末に工事は完了予定。医師確保は現時点で30人(基本構想は40人)。看護師は開院時80%稼働率で180人を予定しているが、まだ不足している。

医療連携の基本は、県の地域医療再生計画の構想に沿い、周産期、小児医療体制(土屋病院の中核病院化)を強化する。また、医療情報ネットワーク化による地域医療連携のシステム構築をめざす。